

第 14 回北上市史編さん委員会（要旨）

1 日 時 令和 4 年 9 月 21 日（水）午後 1 時 30 分～ 3 時 15 分

2 場 所 市役所本庁舎 2 階庁議室

3 出席者

市史編さん委員 8 人（2 人欠席）

事務局 5 人

4 内 容

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 報告

① 第 12 回北上市史編さん専門委員会の結果について

② 資料編古代・中世の刊行延期について

9 月に刊行を延期した理由等について説明した。

③ 各部会の進捗状況について

各部会の状況について、担当者から説明をした。

（民俗部会）

今年 12 月末の刊行で進めていたが、部会員が辞職したため、一旦今年度 3 月末の刊行で進める。9 月 25 日の部会で今後の判断をする予定。

（委員からの意見等）

・コロナ禍や執筆者の体調不良など、調査や刊行が進まない要因があり、良いものを作るためには多少時間がかかっても仕方がないと思う。部会内で調整してやれるのか。大幅に遅れるのであれば再調整も必要ではないか。

⇒ 事務局としては各部会の状況を考慮しながら、先に進める方法を検討していきたい。

・民俗部会で辞職した部会員から原稿は出されたのか。

⇒ 原稿は出されなかったなので、別の部会員が原稿を執筆した。

・今年度 3 月刊行となっているが、民俗の原稿を確認したいので、年内の編さん委員会に出すように部会に要請してほしい。

④ 付帯事業について

1 回目の北上市民大学を実施した旨を報告した。

(4) 協議

① 北上市史編さん基本計画について

ア 刊行計画の変更について

【刊行時期の変更希望】

- ・資料編「古代・中世」

令和3年度 ⇒ 令和4年度（刊行日11月30日）

- ・資料編「近代」 令和5年度 ⇒ 令和6年度

- ・通史編「近現代」

令和7年度 ⇒ 令和8年度（刊行日9月30日）

（結論）

資料編古代・中世、資料編近代、通史編近現代については、希望どおり刊行年度を変更する。

イ 通史編原始・古代・中世の名称変更について

専門委員会より、「原始」の部分を「先史」に変えたいとの提案があったことを説明した。

（委員からの意見）

- ・先史は文字を使用していない時代として縄文や旧石器時代を表しているので、適切である。
- ・市史の事業として、配慮したという姿勢はよいと思う。

（結論）

通史編の「原始・古代・中世」を「先史・古代・中世」と変更する。

ウ 北上市史編さん基本計画の見直しについて

（委員会からの意見）

- ・基本計画（案）の3（1）①の「原始」について、イの説明から「原始」の言葉は使わないほうが良いのではないかと。（「先史」が適切）

⇒ 専門委員会では資料編の部分なので変更しないとの意見であったが、再度確認する。

（結論）

アとイの内容を踏まえて編さん基本計画を変更する。

② 通史編について

通史編についての基本事項（構成など）と刊行までのスケジュール、また通史編は後ろに算用数字で付番し、「通史編1 先史・古代・中世」「通史編2 近世」「通史編3 近現代」とすることを事務局から説明した。

<協議事項>

1 通史編編さんの組織体制について

通史編作成の際の組織体制とその役割について、イメージ図を基に説明した。

(委員からの意見等)

・内容の重複等が出る可能性もあるので、監修を置かなければならないのではないか。この代表統括の役割としては、内容を監修することも含んでいるのか。

⇒ 史実の内容を監修することまでは含んでいない。監修できる方がいるなら、お願いしたいが、あえて監修ではなく統括とした。

・全体として統一した文章表現等になっているかどうかは編集業者側が校正の中で行うのか。

⇒ 統一させる校正は業者側でも行う。

・代表統括1は3冊とも全部同じ人か。

⇒ 統一させるためにも同じ人をお願いしたい。

・代表統括1の役割として、編さん委員会からの意向を伝えるとあるが、そのために編さん委員会を何度も開くことになるのか。

⇒ ある程度のことは代表に一任することになるので、委員会の回数が増えるということではない。

(結論)

この案で専門委員会に提案する。(3つのイメージ図を1つにしたものも作成しておく。)

2 考古部会の担当について

通史編の中で、近世以降に取り上げてほしい遺跡等があれば意見をいただき、部会で検討してもらおうよう伝えていきたい。

(委員からの意見等)

・中世までは、考古として入れたほうがよいが、近世以降は考古サイドからのコラムという形で入れ込む方法もある。

(結論)

編さん委員会からは入れてほしい遺跡等は指定しないが、コラムとして考古分野について入れる方法を提案してみる。

3 章立ての表現について

専門委員会から、章立ての題名の表現レベルをどの程度にするか決めてほしいとの提案があった旨を説明した。

また、文章表現のレベルを統一し、執筆の際の参考にするため、4自治体史の例から表現レベルが良いものを選んでいただきたい。

(委員からの意見等)

[章立て]

・表現の仕方によっては自分が読みたい所がわからなくなることもあるので、優しい表現がよいということでもない。古代や中世とかという大きな時代でまとめるよりは、それぞれの細かい時代が入っている方が探しやすいので、臨機応変に章立てをしていくという見方も残しておく必要があると思う。

[文章表現]

・(通史編の書き方として) 資料編があるので、詳しく調べたい時に資料編につながることも必要だと思う。
・青森県史だと文末に資料番号があるので、段落ごとに資料編とつながるように入れ込む方法もあると思う。

(結論)

章立て、文章表現は青森県史を参考にするが、資料等の入れ方は字数の関係もあるので検討しながら進める。

(5) その他

次回の市史編さん委員会は2月頃に開催し、資料はできるだけ事前に配付する。

(6) 閉会